

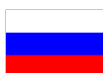
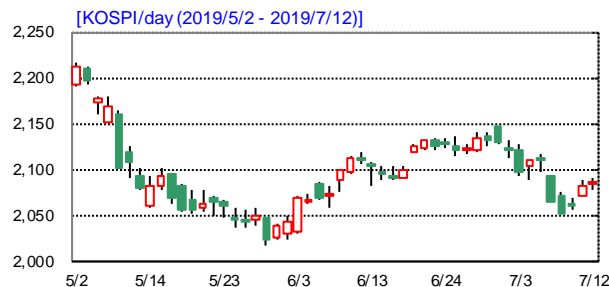


【韓国】 総合指数は週間で 1.1%安と続落、今週は上値の重い展開か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で 1.1%安と続落。特に週前半に米株安や日本政府の韓国に対する半導体材料の輸出規制を嫌気した売りが加速した。週明け 8 日は節目の 2100 ポイントを割るなど 2%超の大幅安。9 日も続落し、終値ベースで 5 月 31 日以来、約 5 週間ぶりの安値を更新した。一方、週半ば以降は米中貿易摩擦の緩和期待や米早期利下げ観測を受けた新興国への資金流入期待が高まる中で買い戻しが優勢。12 日まで 3 日続伸となったが、週前半の下落分を取り戻せなかった。今週は好調な米株相場を意識しつつも上値の重い展開か。国内では 18 日に韓国銀行（中央銀行）の政策金利、19 日には 6 月の生産者物価指数（PPI）が発表される予定。日本との輸出規制を巡る問題、米中通商協議の動向には引き続き注意したい。

▼指数チャート

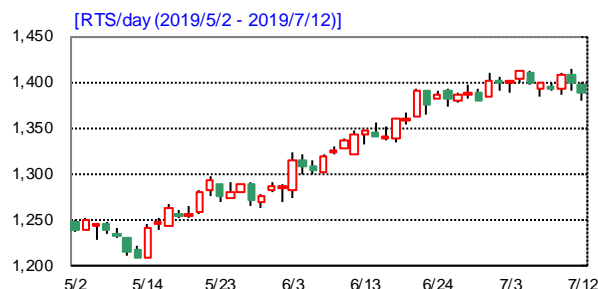


【ロシア】 RTS 指数は 0.8%安と 9 週ぶり反落、今週は原油相場をにらんだ展開か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で 0.8%安と 9 週ぶりに反落。原油高・ルーブル高を好感し、一時的に 5 年ぶりの戻り高値を更新したが、高値警戒感や欧州株の下落を受けて反落した。週半ばまで一進一退で、11 日は米国の原油在庫の減少を背景とする原油価格上昇やルーブル高が好感され、指数は場中に 2014 年 7 月以来 5 年ぶりの高値となる 1413.82 ドルまで上昇したが、終値では反落。高値警戒感や欧州株の下落を受けて売りに押され、12 日も続落した。個別銘柄では金融の VTB バンク（6.4%高）、インターネットサービスのヤンデックス（3.7%高）が上昇した一方、石油のルクオイル（3.6%安）、金融のズベルバンク（2.4%安）、天然ガスのガスプロム（2.1%安）などが重しとなった。今週も原油やルーブル相場をにらんだ展開か。

▼指数チャート



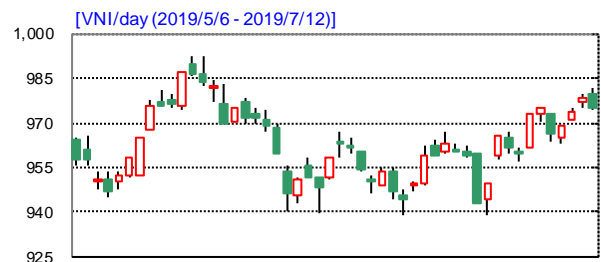
【ベトナム】 ベトナム指数は週間で 0.01%高とほぼ横ばい、今週は神経質な展開か

か

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で 0.01%高と横ばい。米国の大幅利下げ観測の後退で下落してスタートしたが、米中貿易摩擦から受ける恩恵拡大の期待が相場を支えた。週明け 8 日は米国の大幅利下げ期待が遠のき、指数は前営業日比 0.9%安と沈んだが、9 日から 3 日続伸。米中貿易摩擦でベトナムへの投資拡大が期待される銘柄の上昇が相場の支援となった。12 日は 0.3%安と反落したが、週間ではほぼ横ばいで終えた。個別銘柄ではマッサングループ（4.1%安）、ビンホームズ（3.4%安）、ピナミルク（1.7%安）などが指数の重しとなった半面、サイゴンビール・アルコール飲料（3.2%高）、ペトロベトナム・ガス（2.1%高）、ベトコムバンク（1.5%高）などが相場を支えた。今週は

▼指数チャート



本資料は、当社が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成されており、必ずしもその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示したすべての内容は、当社で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。本資料の利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。本資料で記載・掲載している数値および材料などは、会社発表資料のほか各証券取引所、弊社提携先などのデータに基づき作成したものです。

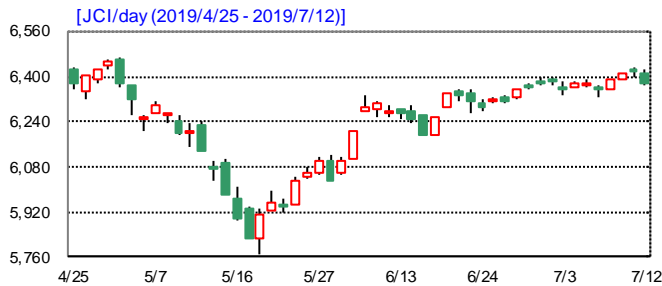


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.002%安、今週は中央銀行が金融政策決定会合を開催

ジャカルタ総合指数は週間で 0.002%安と横ばい。週末の下落が上昇分を帳消しにした。週初の 8 日は前週末の NY ダウが反落した流れを引き継ぎ、続落してスタートしたが、9 日は金融株の一角が買われて反発。10 日は前日に米中の閣僚が電話会談し、貿易交渉を再開した動きが好感され、終値で約 2 カ月半ぶりに 6400 ポイント台に乗せると、11 日も続伸した。ただ、12 日は中国の 6 月の貿易統計が低調だった影響で 4 日ぶりに反落して取引を終えている。今週は 15 日の 6 月の貿易統計発表に続き、18 日には中央銀行が定例会合を開催する予定。政策金利は 6.0%に据え置かれるとの見方が優勢となっている。

▼指数チャート

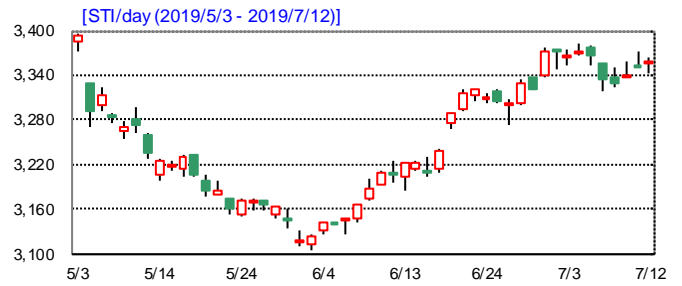


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.3%安、4-6 月の GDP 速報値は 10 年ぶりの低成長

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.3%安と 6 週ぶりに反落。週前半の下落が響いた。週初の 8 日は前週末に発表された 6 月の米雇用統計で非農業部門の雇用者数の伸びが市場予想を上回り、大幅利下げへの期待後退により NY ダウが反落した影響で指数は前営業日比 1.0%安。9 日まで 3 営業日続落したが、その後は堅調で 12 日まで 3 日続伸して引けた。12 日に発表された 4-6 月期の GDP 速報値は市場予想の前年同期比 1.1%増を下回る 0.1%増と 10 年ぶりの低い伸びとなり、10 月の政策見直しで金融緩和が実施されるとの観測が指数上昇につながった。今週は 17 日に 6 月の非石油地場輸出が発表される予定。

▼指数チャート

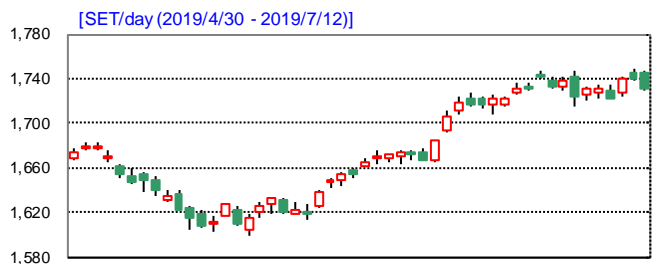


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.02%高、中央銀行がパーツ高抑制策を発表

SET 指数は週間で 0.02%高と小幅ながら 8 週続伸。週末の下落が上昇幅を縮めた。週前半は買い材料に乏しく、9 日まで続落。一方、10 日は前日に値下がりしたエネルギー株が買い戻された効果で前日比 1.0%高と反発すると、11 日も小幅ながら続伸した。ただ、12 日は中央銀行が輸出と観光産業の保護を目的として、パーツ高の抑制策を発表したことが外国人投資家に嫌気され、指数は反落している。短期的な投機資金の流入を防ぐため、22 日から非居住者のパーツ口座残高の上限が引き下げられる予定。今週も国外からの資金の流れが株式相場で見られそうだ。16 日はアサラハブーチャ（三宝祭）のため休場。

▼指数チャート

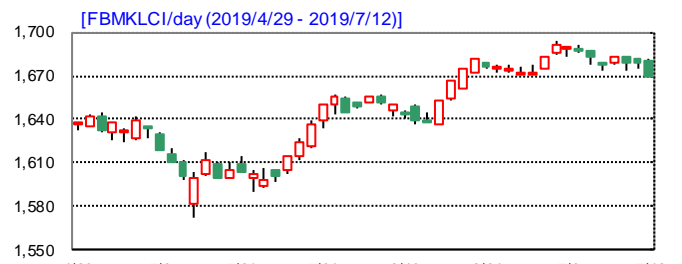


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.8%安、米大幅利下げ観測の後退を嫌気

クアラルンプール総合指数は週間で 0.8%安と反落。一進一退の不安定な値動きだった。週初の 8 日は今月末の米 FOMC での利下げ幅が 0.25%にとどまるとの見方が強まり、指数は 4 営業日続落。新興国への投資が縮小すると懸念が嫌気された。一方、9 日は中央銀行が政策金利を市場予想通り 3.0%に据え置いた安心感で買い戻された。その後も 11 日まで 1680 ポイントを挟んでもみ合いが続いたが、12 日は 5 月の鉱工業生産が前年同月比 4.0%増と市場予想から上振れたものの買い材料にならず、約 3 週間ぶりの安値を更新している。今週は国内の重要イベントが少なく、外部要因が指数を左右する展開か。

▼指数チャート



本資料は、当社が信頼できる情報に基づき作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。ここに示したすべての内容は、当社で入手した資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。本資料の利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。本資料に記載・掲載している数値および材料などは、会社発表資料のほか各証券取引所、弊社提携先などのデータに基づき作成したものです。

本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するようしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があり、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。